人気返礼品 コロナで変化

ふるさと納税 自治体注目

肉・魚介→マスク・除菌液

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、ふるさと納税の返礼品のマスクや除菌液が注目を集めている。品薄で入手しづらくなり、これまでの肉や魚介類が中心だった人気の傾向が変化。売り上げが落ち込む地元業者の救済策として取り扱いを始める自治体も現れた。

大阪府泉南市は市内業者の手作りのガーゼマスクを出品していたが、2月ごろから注文が殺到。生産が追いつかず、受け付けを休止する事態となった。そこで新たに地元特産の「泉州タオル」の生地を使った布マスクを4月に返礼品に追加すると、約2週間で700件以上の寄付が集まった。

吸水性に優れ肌触りが良いのが特徴で、地元のタオル業者が生産する。市政策推進課の伊藤公喜課長は「地域の伝統技術を生かした品。マスク不足の解消につながれば」と話す。泉州タオルは安価な中国製タオルに押され苦境が続いており、業者にとっても知名度向上の好機となっている。

宮崎県小林市では、地元の縫製業者が従業員用に作ったマスクを数量限定で出品すると即品切れに。22日からはマスクの生産態勢を整え寄付の使途として、帰省の自粛を余儀なくされている学生に米などの救援物資を送るプロジェクトを立ち上げた。「寄付急増をコロナで困っている人に役立ててほしいという市民の声が大きかった。多くの学生にエールを届けたい」と担当者は意気込む。

佐賀市でも4月から、地元の化学メーカーが製造した除菌効果のある「次亜塩素酸水」20リットルを返礼品にした。2万円以上の高額な寄付が必要だが、米や牛肉に迫る勢いで申し込みが相次いでいる。市の担当者は「売り上げが落ち込む事業者の一助となるよう返礼品を拡充している」と明かす。

返礼品検索サイトの「ふるさと納税ガイド」によると、今月に入り返礼品にマスクやトイレットペーパーなどの日用品を選んだ寄付者の割合は昨年12月から約3倍に増えた。運営するカリーグズ（東京都港区）の福田航太代表は「外出自粛が叫ばれ、マスク価格の高騰が続く中、自宅で注文できて自己負担の少ないふるさと納税のお得感が増した」と分析。「感染拡大の終息は見通せず、今後も日用品の需要が伸びるのでは」とみている。

㊤大阪府泉南市特産の泉州タオルの生地を使った布マスク
㊦佐賀市がふるさと納税の返礼品にしている次亜塩素酸水（同市提供）

（C）北海道新聞社　無断転載、複製及び頒布は禁止します。